

## 第 44 回東京実技セミナー 開催報告

開催日時:2017 年 1 月 15 日(日)10 時~17 時まで(受付 9 時 30 分~)

開催場所:ラックヘルスケア株式会社 東京オフィス

主催:NPO 法人 口から食べる幸せを守る会®

共催:ラックヘルスケア株式会社

後援:株式会社クリニコ 日清オイリオグループ株式会社 渡辺商事株式会社 株式会社大塚製薬工場



<敬称略>

### 開催目的

KTBC ツールを用いて、対象者を包括的に支援するための基本事項や展開方法が理解できることを目的として開催します。また、困難症例に対する具体的なスキルアップが図れるよう、講義・グループワーク・実技演習などを組み合わせて実技指導を行います。

### KTSM 実技認定者(講師・アドバイザー)一覧

<敬称略>

氏名	所属	職種(摂食嚥下に関する資格)
小山珠美	NPO 法人口から食べる幸せを守る会® 理事長 JA 神奈川県厚生連 伊勢原協同病院	看護師 日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士 KTSM 実技認定者
竹市美加	NPO 法人口から食べる幸せを守る会® 副理事長 ナチュラルスマイル西宮北口歯科	摂食・嚥下障害看護認定看護師 KTSM 実技認定者
金 志純	社会福祉法人鶴風会 東京小児療育病院	摂食・嚥下障害看護認定看護師 KTSM 実技認定者
甲斐明美	医療法人社団 東山会 調布東山病院	摂食・嚥下障害看護認定看護師 KTSM 実技認定者







### セミナーサポート一覧

氏名	所属	職種(摂食嚥下に関する資格)
福岡 碧	NPO 法人口から食べる幸せを守る会®	事務員
齋 健太郎	ソフィア総合ナースステーション城南	摂食嚥下障害看護認定看護師 KTSM 実技認定者
大谷愛子	仙川の杜デンタルクリニック	歯科医師 KTSM 実技認定者

## アンケート集計結果（参加者 27 名、アンケート回答者 21 名）












### 職種

21

回答	票数	%	
医師	0	0%	
看護師	7	33%	
歯科医師	4	19%	
歯科衛生士	3	14%	
栄養士・管理栄養士	4	19%	
言語聴覚士	0	0%	
作業療法士	2	10%	
介護職	0	0%	
その他	1	5%	

### 勤務先都道府県

21

回答	票数	%	
宮城県	2	10%	
秋田県	0	0%	
山形県	3	14%	
群馬県	1	5%	
埼玉県	2	10%	
千葉県	0	0%	
東京都	2	10%	
神奈川県	3	14%	
新潟県	2	10%	
富山県	2	10%	
石川県	1	5%	
福井県	0	0%	
山梨県	1	5%	
愛知県	2	10%	

回答	票数	%	
初めて	5	24%	
2回目	10	48%	
3回目以上	6	29%	

本日のセミナーの内容は、KTBC展開のスキルアップにつながったと思いますか？

21

回答	票数	%	
かなりそう思う	19	90%	
まあまあそう思う	2	10%	
あまりそう思わない	0	0%	
そう思わない	0	0%	

KTBCをこれからどのように活用していきますか？

64

(複数選択可)

回答	票数	%	
自身のスキルアップ	19	30%	
チーム活動	19	30%	
地域連携	15	23%	
学会・研究など	11	17%	
その他	0	0%	

## 感想(今後の展望など)

KTBC を院内に導入し、多職種で活用したいと思い参加した。しかし、計画を言語化できていないこと、そもそも十分な観察ができていないことを実感した。呼吸や食事介助法を学んだので、次の症例ではそれらを計画として立案出来るように取り組んでいきたい。

今回の勉強で、KT バランスチャートの使い方がまったく理解できていないのが、よく解りました。これからの仕事にあたって、もっと積極的に患者さんのアセスメントをとり、他職種の人達にこちらの考えをきちんと伝えるためのツールにできるような KT バランスチャートを作れるようにしたいと思っております。

KTBC 評価時のアセスメント・アプローチ計画が不十分だった。患者の既往歴や症状からさらに具体的に評価・計画立案することで、患者の強み・弱みを明確にして、強みから弱みをカバーできるようなアプローチを展開しなければならない。このKTBCはその状況や今後の展開が病棟チーム・多職種で共有できるツールとして有効であり、まずは今期3月中にNSTチームで運用を開始して、電子カルテへの反映手段など具体的に検討を行う。施設入所者に対しても地域連携室を通して患者の全体像を評価した結果として看護サマリーとともに提示することを周知したうえで4月から運用を開始する。チーム活動の中でKT バランスチャートを評価ツールとして使用して、チーム内で包括的アプローチをしていきたいと考えています。

評価を安定して行い、計画を立てる。一連の流れを文章に残し、スタッフやご家族にわかりやすくする。それに伴い、知識、手技の向上を目指す。

自分自身の課題は、適切なポジショニングと嚥下スクリーニングの手技です。この部分に自信がなかったため、自然と高度嚥下障害がある方への介入を避けてしまう傾向にありました。エビデンスに基づく手技を身につけ、日々介入しながらその知識を他のスタッフへと広めていかなければと感じました。今後、患者様の退院までに結果をだせないこともあると思います。その時は、実際にできたこと、できなかったことを栄養サマリーに添えて情報提供していくつもりです。これからもセミナーに継続して参加し、知識と経験を深めていきたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。

アセスメント・計画を具体的に記載し多職種とのコミュニケーションツールとして使いこなせるようになること。症例件数を増やし研究につなげる。

現状を踏まえた上で分析してから計画立案をすることができていなかったのも、しっかりアセスメントして計画をたてていきたい。

観察、アセスメントをおこない、バランスチャートを用いて患者さんの問題点を明確にすることで、具体的な問題解決方法を、展開していることが出来るようになる。

嚥下機能について、まだ勉強不足なので、今後さらに知識を深めて、その上で、地域の多職種の方々との連携に KTBC を活用出来るようにしたいと思います。

今後の課題としては、自分の介入だけではなく KTBC を用いながら多職種との連絡・調整といったマネジメントも行うことです。KTBC を用いた症例を用いて院内研修会で啓蒙活動を行います。予定としては2月に実施予定です。

技術の習得だけでなく、知識も一緒に学んでいく必要があると思った。そのため、資格取得等も視野にいれ、学びを継続していこうと考えている。また、一人でも多くの人に、口から食べることの重要性を伝え、患者自身の QOL の向上に努めていきたいと思う。

自分が KTSM を行っていくうえでどうなりたいかという具体的内容が不十分であったことを今回のセミナーで改めて感じた。そのため評価をしていても今後の方針が曖昧になっていたと思う。目標をはっきりしていきたい。  
・自分発信から KTSM を広めていく自信がまだなく、周りの協力が必要だと思った。

KTBC を用いてスムーズに問題抽出ができるようにしたいです。

姿勢調整や食形態をもっと勉強して引き出しを増やし、少しのアドバイスで良くなる、良くなれるように！

傾眠の方も多いため、薬剤も見直し医科の先生とも連携を図りたいです。

視覚、味覚、聴覚、嗅感……を充分引き出した食事介助のアドバイスをしたいです。

アセスメントをするときに現象を見るだけで精一杯でした。原因は何なのか見極めて対応する力をつけたいと思っております。そのために、まずはKTバランスチャートを暗記するくらい読み込みます。アドバイザーの方々の知識や対応がスゴイ！！私をもっともっと一生懸命学べば近づけるのでしょうか。実技認定制度の素晴らしさを教えていただきましたので、目標したいと思います。



まずは講義から♪



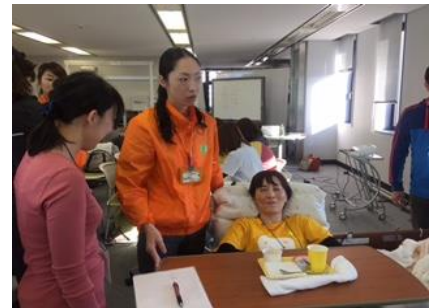
事例を用いたグループワーク中の様子



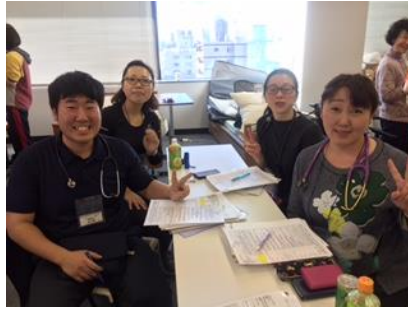
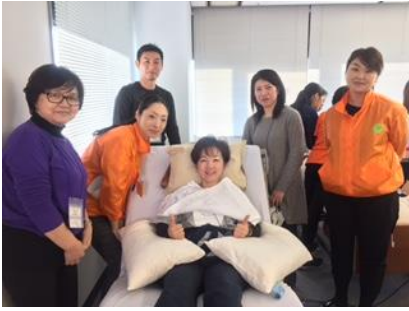
KT バランスチャートについて  
アドバイザーが指導しています



患者さん役を体験中



受講者が感じる困難事例に  
ついて実技を行いました



グループで写真撮影♪



ご参加いただいた皆様、ありがとうございました

